

## 2019.9.10 「子どもに関する講演会」の報告

和元年9月10日(水)16時00分から、第一学院博多キャンパスにおいて不登校生の保護者を中心に60分ほどお話をさせていただきました。「子どもに関する講演会」ということで子どもの心情考え方などを中心に大人と子どもの視点違いなどを中心に話を進めました。お互いが思い込んでいたり、良かれと思ってやったことが逆効果になるなど、思い道理にならず悩んでいることが多いものです。自分の意見で相手を変えようとすることは大変なことです。しかし相手がどう思っているか、何をしてほしいのか、それを考えることができれば自分の考えも素直に受け入れてもらえるかもしれません。

今回は「不登校生の保護者」はもちろん、不登校経験者や支援者など幅広い方が参加されていました。

### 感想アンケートより

- できないことは無理してさせない。できることをさせよう。親子の間できちんと話をして、子どもの意見をきちんと聞こうと思いました。
- 話を聞きながら子どものことを自分がどういう感じか考えながら聞いていました。反省することや気付く点がたくさんありました。
- できるところからというのは同感するところがありました。
- 親が行かせないと、と思えばストレスから子どもにプレッシャーを与えてしまうので、親のストレス軽減になる講演も期待している。
- 不登校になる前の子どもたちに勉強やスポーツ以外でもできること、何かできそうなことがあったら人生のチャンスがあるのだと知る機会があれば。
- 先生のお話を聞いて頭の中を整理することができました。
- 不登校になっての問題点を解決すること。欠点を見つけてできるようになることを優先するといつまでたっても本人を認めないことになってしまう。成長の意味も考えさせられました。
- 指導者と支援者の違いがわかりました。
- 生徒を取り巻く大人の役割がわかりました。
- 子供が不登校になった友人に今日の話伝えます。
- とても参考になりました。
- 子どもの話よしっかり聞きお互いに本音で話しあえること。そして伝えることはきちんと伝えようと思います。